

## 「おもしろくない時」「楽しくない時」どうしますか

校長 白澤 道夫

暑さと新潟県以北を中心に大雨による被害が大きかった夏休みが終わり、今日から2学期が始まりました。気温も少し下がり、季節が秋に向かっていて感じさせます。

さて本日、始業式の中で、今学期81日間をとおして、子どもたちに期待する姿について次のように話しました。

### ----- 「おもしろくないな」「楽しくないな」と思ったら【概要】 -----

私たちの周りでは、毎日様々なことが、少しずつ形を変えながら行われています。皆さんは、これまでに、学校生活や家庭生活等の中で「おもしろくないな」「楽しくないな」と思ったことはありませんか？（私自身、たくさんあります。）  
そんな時、みなさんはどうしていましたか？（我慢していましたか？）

### **「おもしろくないな」「楽しくないな」と思ったら 「おもしろくなるように」「楽しくなるように」変えればいい。**

**自分自身（自分一人では難しいなら友達と協力しながら）で**

- ① 「おもしろくない」「楽しくない」理由を見つけて
- ② 「おもしろくなる」「楽しくなる」作戦を考えて
- ③ 相手が「納得（できるまで）」伝え続ける。

（子どもであっても）自分の人生です。自分の人生は自分でつくるものです。その練習は、毎日の学習で行っていきましょう。今日がその始まりです。

学校において、子どもたちは「主役」「主人公」です。学校生活の大半を占める授業においても「（教師が）〇〇させる」ではなく「（子どもが）〇〇する」なのです。

上記のことを踏まえ、当校では、子どもたちや保護者の皆様からの意見をもとに、夏休み中に先生方で、2学期の取組について協議を重ねました。

私は、学校教育の目標の1つは「（子どもたちが抱く）将来の希望を実現する力を身に付けさせる」ことにあると確信しています。しかし実際に実現するのは子ども自身です。そのために「やらされる」から「やる」、受け身から自発的な子どもの姿へと、発想を変え、当校の教育活動を見直していくことが必要です。

まずは、4月から始めた「言語の力」の充実と「家庭学習」の転換、そして子ども一人一人の「強い意志」をとおして、全職員で「おもしろい」「楽しい」学校にしていきます。